

## 第5回協同組合クイズ クイズと回答（2025.12.1～2026.1.10）

Q1. 農業協同組合の組合員には、農業を仕事にされている「正組合員」と、地域に住んでいる農業者ではない方で、JAに出資金を支払って加入する「准組合員」がいるが、組合員として多いのは准組合員である。 キーワード：JA 組合員

答え：○

解説：JAの組合員数は令和4年度時点で正組合員が393万人、准組合員が634万人です。農家戸数の減少や農業者の高齢化などにより、正組合員が減少する一方で、准組合員数は増加しています。これは、JAが地域に密着した協同組合として、地域の人たちに評価されているからとも言えます。

根拠URL：[https://org.ja-group.jp/factbook/02\\_3](https://org.ja-group.jp/factbook/02_3)

Q2. 「牛乳」は、いつも同じ味である。 キーワード：牛乳 味の違い（出題：茨城県酪農業協同組合連合会）

答え：×

解説：牛乳や乳製品の原料となる生乳は、牛から搾ったままの乳のことで、栄養豊富な反面、傷みやすいので、搾乳後すぐの低温保管等、繊細な取扱いが必要となり、液体なので運びにくいという特徴があります。

また、生乳は、生き物である乳牛が生み出す農産物なので、季節などの飼育環境、えさの種類、乳牛の品種、乳牛の年齢などにより乳量や乳成分が変化し、味や香り、コクなど風味にも影響を与えます。乳牛は、暑さに弱く寒さに強い動物なので、乳量、乳成分とも気温による影響を大きく受けます。乳牛にとっての快適気温は10～15℃とされ25℃を超えると体温が上昇、食欲も減退して、乳量や乳成分が低下していきます。

根拠URL：<https://www.dairy.co.jp/archive/kulbvq00000qiah-att/qa2020.pdf>

Q3. 協同組合の取り扱う共済(こくみん共済・県民共済・JA共済・JF共済など)は、営利を目的とせず、年齢・地域に関わらず同じ掛金で、組合員にとって必要な保障を提供している。 キーワード：共済

答え：○

解説：多くの人からお金を集めて、万一の事態が起こった人に保障を提供するという仕組み自体は、「共済」も「保険」と同じですが、「共済」と「保険」にはいくつか異なる部分があります。共済事業は、組合員が自ら運営することを通じて、組合員に最大の奉仕をすることを目的として事業を行っており、営利（出資者に最大の配当をするために事業を行う）を目

的とする株式会社の行う保険事業は、株主への配当を目的とする営利事業ですから、この点が最も大きな違いと言えます。

根拠URL：[https://www.ja-kyosai.or.jp/enjoy/find/about\\_kyosai/](https://www.ja-kyosai.or.jp/enjoy/find/about_kyosai/)

Q4. 消費生活協同組合(通称：生協またはコープ)は、組合員になって商品の購入やサービスを利用するが、全国どこの生協にでも加入することができる キーワード：生協 加入  
(出題：茨城県生活協同組合連合会)

答え：×

解説：生協は消費生活協同組合法で「一定の地域または職域による人と人の結合であること」と定められており、事業エリアを超えた営業活動を行うことはできません。基本的にはお住まいやお勤め先近くの生協に加入することになります。

根拠URL：<https://jccu.coop/about/question/request/#anc01>

Q5. 2025年は国連が定めた「国際協同組合年」である。 キーワード：国際協同組合年

答え：○

解説：国連は、一年間を通じて、平和と安全、開発、人権・人道の問題など、ひとつの特定のテーマを設定し、国際社会の関心を喚起し、取り組みを促すために、「国際年」を制定しています。国連はその一環として2025年を2012年に続き2回目の国際協同組合年と定めました。

2025年は世界の協同組合が力を合わせ、協同組合の振興に取り組みました。このクイズキャンペーンを通じて、少しでも協同組合に興味を持っていただければ幸いです。

根拠URL：<https://www.japan.coop/iyc2025/about.php>